

北川氏ノーベル賞

化学賞

京大特別教授 脱炭素「夢の吸着剤」
金属有機構造体を開発

【ストックホルム共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは8日、2025年のノーベル化学賞を北川進京都大特別教授(74)ら3氏に授与すると発表した。授賞理由は「金属有機構造体の開発」。6日に生理学・医学賞に選ばれた坂口志文大阪大特任教授に続く受賞決定となった。

北川氏は、分子が自然と立体構造に組



北川進氏

み上がる「自己組織化」の手法を研究。天然ガスなどの気体を、内部の規則正しく並んだ微小空間に貯蔵できる「多孔性材料」を開発した。大気から二酸化炭素(CO₂)だけを選んで回収するなど「夢の吸着剤」として環境分野などへの応用が期待されている。

日本のノーベル賞受賞は、個人では30人目、昨年平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(被団協)と合わせる31例目となった。化学賞は、19年に選ばれた吉野彰旭化成名誉フェロー(77)以来6年ぶり、9人目となる。

北川氏は近大助教授を務めていた1990年ごろ、金属イオンや有機化合物など分子の「自己組織化」を研究。ジャングリズムのような構造の材料を合成することに成功した。

神戸新聞

NEXT



詳しくはこちら